

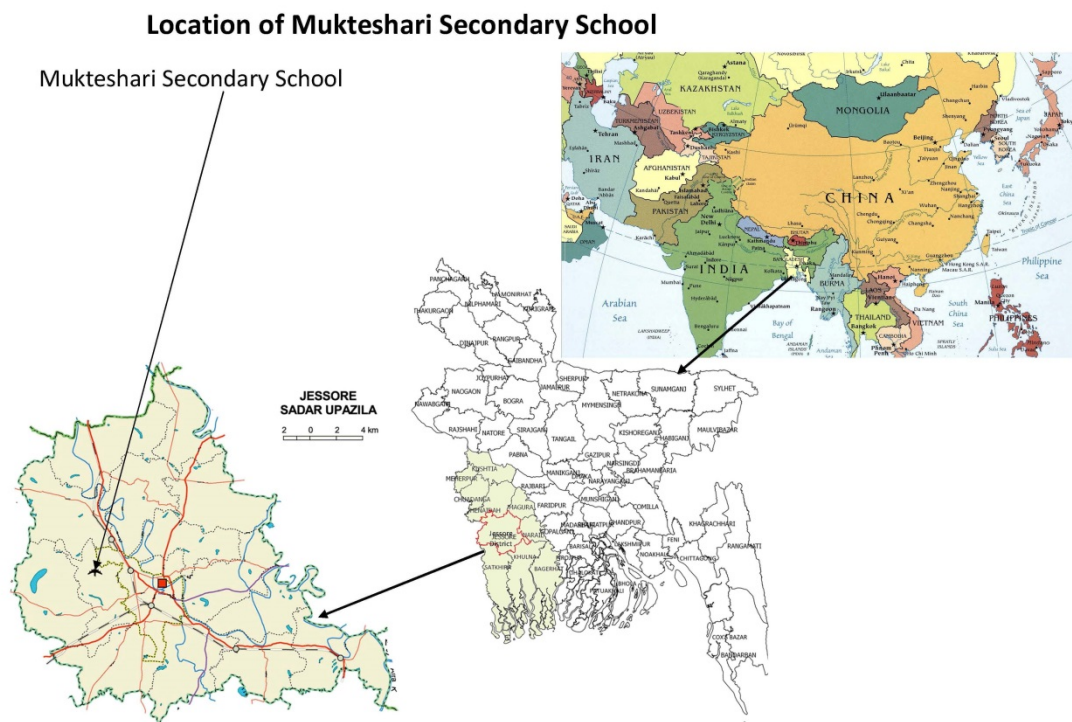
バングラデシュの高校生の1日

(ムクテショリ・セカンダリー・スクール)



バングラデシュの高校生の1日を写真で紹介します。

ムクテショリ・セカンダリー・スクールは、
クルナ管区ジョソール県ジコルガチャ郡にあります。
地図で示すと、



朝は、緑のトンネルをくぐって登校します。



校舎は2階建て。男女共学です。



早朝の補習(コーチングといいます)。



8時に朝礼が始まります。



800 人の生徒が男女別、学年別に整列し、数人の生徒が「今日 1 日正直に過ごします」などと約束し、アジア最初のノーベル文学賞受賞者ロビンドラナート・タゴール作詞の国歌「黄金のベンガル」をうたいます。左端は校長先生。





クラスの男子 24 人、女子 27
人。男子も女子も積極的に
発表します



2 時間目は、校長先生がマルチ
プロジェクターを使って、
太陽系宇宙の話をしました。



授業の終わりは、鐘を打って知らせます。



10時55分から45分間の休憩



校庭に並んだ出店では、辛くて酸っぱいスナックを売っています。

学校の近くの食堂で腹ごしらえをする生徒もいます。



チューブウェル(管井戸)の水を飲んで喉をうるおします。砒素濃度は基準値以下の安全な水です。

休憩後は英語の授業



つづいて経済の授業

「バングラデシュの発展にとって必要なことは何か？」



グループで考えて、答えを書いて発表します。

昼食前に、授業は終わります。

下 校



放 課 後

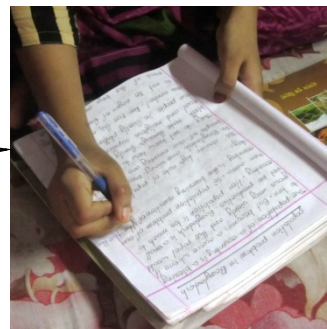
＜父をなくした農家の女生徒の場合＞

家に帰ると、おばさんの一家といっしょに昼食を食べます。



机がないので、ベッドの上で教科書とノートを開いて勉強します

きれいな字で書かれた英語のノート



＜公務員の家庭の男子生徒の場合＞



母が料理した昼食を食べます
この日は、イリシュ(国魚)のフ
ライとバングラカレーでした。

牛の世話をしたあと、姉が
開いている塾(コーチング
スクール)で勉強します



。

日本とバングラデシュの高校生活の比較

バングラデシュの高校も、日本と同じように早朝の補習があり、帰宅後、塾（コーチングスクール）で学んでいる生徒もいます。1年に1回のスポーツ大会や文化祭に向けて準備をしたり、バスに乗ってピクニックに行き、みんなで料理を作って食べたりします。数学の授業を見学した日本の高校生は「勉強している内容はほとんど同じ」と話していました。二つの国の高校の大きな違いは、バングラデシュでは授業時間が短い（3月～8月は午前8時～午後2時、9月～2月は午前10時～午後4時）こと、放課後の部活がないこと、設備に恵まれないので、体育館でのスポーツ、楽器を使った音楽、化学実験などがないことなどです